

農作業における収益向上プラン

～地域貢献・作業効率底上げを目指して～

はじめに

私は現在、露地栽培でブロッコリーを作り、水稻で米の生産、また、田植えと稲刈りの受託をしています。

元々父が専業農家として米の生産と受託を営んでいました。幼い頃より父の仕事についてまわり、常に農業と共に育ってきた私は『いつか農家を継ぎ、父が苦勞して築き上げたものを守っていきたい』と自然に思うようになり、小学生になる時分には手伝いを始めていました。

平成19年に代変わりをし、改めて農業と向き合った時、今後米の生産と受託だけでは経営不安定になるのではと考え、新しくブロッコリーの栽培を取り入れる事になりました。

というのも、日本人の食生活の変化、並びに人口の減少、そして、主に畜産飼料や菓子・米等の原材料に使用される輸入米の導入による、国内生産の米の需要が減少の一途を辿っているからです。

増産されるのに、消費は減少。そういった状況を冷静に考え、米だけにこだわらず、大山町で主要品目となっているブロッコリーの栽培に着手しました。

今後は、高齢化に伴い受託は激減すると想定し、ブロッコリーの栽培面積の拡大、及び作物の品質向上を目指し経営安定を。そして、後継者不足で耕作できなくなる農地の管理も視野に入れ、地域への貢献もはかっています。

大山町 近藤文人

目指す経営

1 化成肥料を減らし、堆肥・鶏糞・緑肥施用によるコスト削減、並びに土壌の物理性改善や浸食・風食の軽減、そして連作障害の防止をはかる。

⇒現在 と堆肥の契約を結んでおり、有機肥料による健全な農作物を栽培している。
⇒堆肥を使用するにあたっては、周囲に迷惑が及ばない土地を借り、今後も生産面積の拡大を狙う。

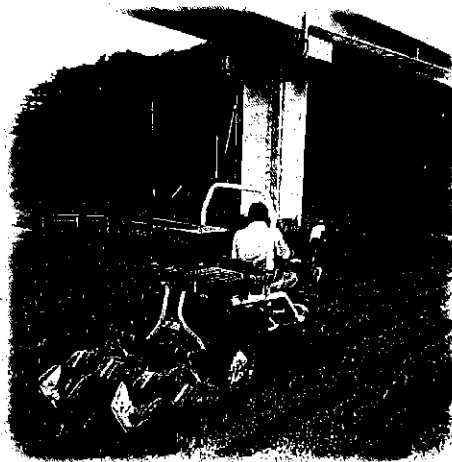
2 米・ブロッコリー・作業受託による周年体系を確立し、経営安定をはかる。

⇒試験品種も積極的に取り入れ、より生産性の高い品種を導入していく。

3 高齢化に伴い増加する耕作放棄地を受け入れ、地域への貢献を目指す。

4 作業受託を積極的に引き受け、高齢により農作業ができなくなった人の力になる。

5 地域での就農希望者がいれば農の雇用事業を取り入れ、新規就農者の育成に助力し、新たな農業の担い手を支援する。



現状

労働力

労働力		現状
近藤文人 ()	本人	320 日
	妻	250 日
	父	200 日
	母	250 日

*父は平成 25 年に _____ を発症の為、現在治療しながらの作業。長時間の労働は難しく、猛暑や厳しい寒さの日には作業不可能。

主たる機械、設備

機械・設備	数	性能・その他	導入年
ビニールハウス兼作業場	2	50m/20m	平成 19、20 年(中古)
2トトラック	1		平成 18 年(中古)
軽トラック	2		平成 21、25 年(中古)
トラクター	2	20ps	昭和 59、平成 2 年(中古)
コンバイン	2	4条/3条	平成 12、24 年(中古)
田植機	1	6 条	平成 17 年
動力噴霧器	1		平成 26 年
移植機	1	1 条	平成 20 年(リース事業導入)
管理機	1	2 条	平成 20 年
代掻きロータリー	2	2m	平成 10 年

26 年耕作面積

地目	所有面積	借用面積	受託面積
米	0	350 a	---
ブロッコリー	5 a	355 a	---
作業受託	---	---	200 a
合計	5 a	705 a	200 a

計 910 a

作業受託：荒起こし 150a、代掻き 150a、田植え 200a、稲刈り 200a

課題

1 米の作業受託

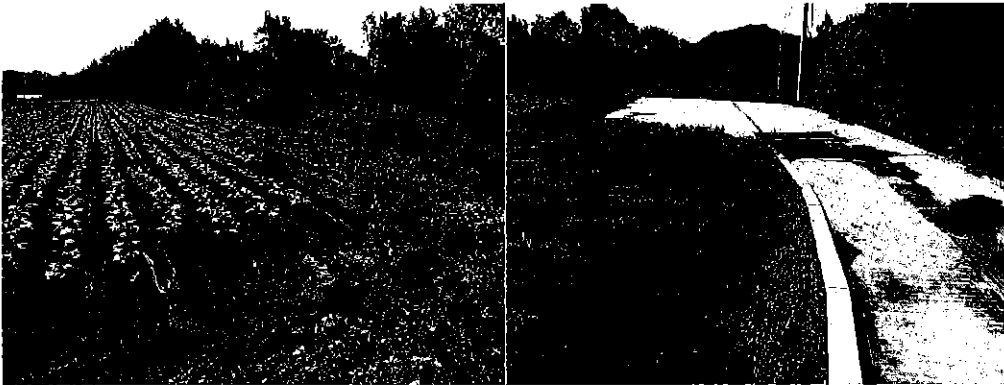
①場所が点在している為、移動時間がかかる。

②現状の機械では1日にこなせる量が限られている。20psのトラクターを使用しており、代かきなど時間の要する作業の効率が悪い為、早朝から深夜まで掛ることも。

③秋冬ブロッコリーのは場準備と稲刈りの時期が被り、時間を要する作業が重なるため、作業効率が悪く、結果として稲刈りが遅れ、適期刈取りをのがしてしまう。

2 ブロッコリーの栽培

①長雨が続くと低いところに土が流され、圃場の勾配がなくなることで水がたまりやすく、湿害を受けてしまう。また、年々蓄積されていくと土が畑の外まで流れ出ることもあり、近隣住居に迷惑がかかることもある。土の移動が簡易にできれば被害を減らすこともできるが、現状使用しているトラクターでは大型のローダーの装着はできない為、対応が難しい。



②秋冬ブロッコリーは、真夏に耕運・定植・土寄せを行う為、キャビンの無いトラクターでの作業は過酷。近年は猛暑日が多く、肉体疲労が激しく管理がままならない日もあり、規模拡大の妨げとなる。また、圃場が点在している為、現在のトラクターでの移動では遅く、ロータリーの幅も狭いので作業効率が悪く熱中症の恐れもある。

③秋から春にかけての収穫では標高の高いところから低いところまで分けて作る必要がある。また、高齢化によって管理が難しくなった圃場の受け手となっているために集積も難しく、栽培している圃場が10キロ程離れている場所などがあるために作業時の時間がかかってしまう。

④堆肥会社と個人契約し、鶏糞散布までしてもらっているが、同様の利用希望者が増えてきており、散布時期が遅れることがある。このまま利用者が増えれば、欲しい時期に散布ができない可能性が出てくる。

課題改善の対策

1 大型トラクターの導入

*堆肥を施用した際、点圧された地盤は堅く、現状の馬力の小さいトラクターでは耕運に時間が掛るため、44psのトラクターを導入する事で作業効率が上がる。

*秋冬ブロッコリーの定植準備が短期間でできるようになり、効率良く作業を回せることで、稲刈りの作業受託に余裕が生まれ、適期の刈取りができる。また、ハイスピードのトラクターを使用することで、圃場間の移動時間も減らすことができる。

*キャビン付きにする事により、夏場の猛暑時に長時間の耕運作業が負担軽減になる。肉体疲労が軽減される事により、他の作業をする効率も大幅にあがる。また、キャビンがある事で、勾配のある畑を作業する際に安全性（落下・転倒など）が確保できる。

*現在の栽培規模、作業受託規模を考えると、馬力の大きいトラクターを導入する事での作業効率時間上昇は明らか。今後の規模拡大も望める。

2 ローダの導入

*整地する事で、畑にできた起伏を均し、窪地にたまった水による湿害を回避でき、作物を守る事ができる為、収穫量の上昇が見込める。

*毎年、定植前に雨で上から下に流れてしまった土を上に戻し整地する事で、今年のように長雨の続く天候でも、近隣へ流れ出る土の被害を減らすことが可能。また、今まで撤去の作業や、整地にかけていた時間を短縮する事ができるので、他の作業への効率も大幅に上昇する。

*近年、高齢化により農地を管理できなくなって久しい田畑は石も多く、モグラの穴等で水漏れも起こす。その為、除石・拾い上げ・搬出作業と、均平作業、そして土壤改良をす

る事で、農業放棄地になった田畑でも耕作が可能になり、地域への貢献にもなる。

*業者に運搬してもらえば自分で広げることができ、作業スケジュールにあわせた堆肥施用へ有効に活用できる。

3 ドライブハローの導入

*作業受託で最も時間を要する作業で、特に凹凸の極端にある圃場は現状の機械では作業時間を切迫するばかり。3.50mのドライブハローを導入する事により、作業効率はかなり上昇を見込める。

*昨年父が病で倒れ、今まで2人で行ってきた代掻きも1人で賄わなくてはならなくなり、代掻きの効率を上げる事は必至。他の作業を圧迫しない為にも導入は必要不可欠である。

将来の展望

労働力

	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
近藤文人	320 日	320 日	320 日	310 日	300 日
	250 日	250 日	270 日	270 日	280 日
	200 日	190 日	180 日	180 日	180 日
	250 日	250 日	250 日	250 日	250 日

耕作面積

地目	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年	平成 29 年	平成 30 年
米	350 a	350 a	370 a	380 a	400 a
ブロッコリー	360 a	360 a	380 a	380 a	400 a
作業受託	200 a	200 a	250 a	280 a	300 a
合計	910 a	910 a	1000 a	1040 a	1100 a

*子供が大きくなるにつれて妻の労働時間を増やすことが可能。将来的には機械仕事も任せる予定なので、作業効率上昇と規模拡大が見込める。

導入計画

	平成 27 年	実施主体・関係機関
トラクターの導入	◎	本人・町・県
ドライブハローの導入	◎	本人・町・県
グレイタスローダの導入	◎	本人・町・県

事業計画

単位千円

	規格・性能	導入年	事業費	負担区分
トラクター	KL44ZHCQMANP	平成 27 年	6,532	本人 1/2 町 1/6 県 1/3
ドライブハロー	TX352E-UA	平成 27 年	1,222	
グレイタスローダ	KLH44Z	平成 27 年	1,375	

※自己負担部分については農協の振興資金を活用予定